

(参考様式2) 社会資本総合整備計画 事後評価書

令和元年7月

計画の名称	33 富山市における橋梁等道路構造物の適確な維持管理の推進 (防災・安全)									
計画の期間	平成25年度～平成29年度 (5年間)			交付対象	富山市					
計画の目標	災害時に緊急避難路となる道路や、復旧・復興を支える道路の整備を進めるとともに、橋梁の耐震化などを進め、災害に強いまちづくりを推進する。									
計画の成果目標 (定量的指標)										
<ul style="list-style-type: none"> <li>市が管理する重要橋梁の橋梁保全率を約2% (H24) から71.0% (H29) 増加させる。</li> </ul>										
定量的指標の定義及び算定式				定量的指標の現況値及び目標値			備考			
① 市が管理する重要橋梁のうち、管理水準を下回る主要部材がある橋梁の補修件数から、補修実施済み件数を集計し、その割合を算出する。 (橋梁保全率) = (補修実施済み補修件数) / (管理水準を下回る橋梁補修の件数) × 100 (%)				当初現況値 (H24末)	中間目標値 (H27末)	最終目標値 (H29末)				
				約2%	29.0%	71.0%				
全体事業費	合計 (A+B+C)	6,202 百万円	A	6,202 百万円	B	0 百万円	C	0 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
富山市	令和元年7月
	公表の方法
	富山市ホームページに掲載

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																	
A1 道路事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	道路種別	省略 工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
											H25	H26	H27	H28	H29		
33-A1-1	道路	一般	富山市	直接	-	市町村道	修繕	(他) 神通町安養坊線他 神通大橋他	橋梁補修(重要橋梁)224橋	富山市						3,600	
33-A1-2	道路	一般	富山市	直接	-	市町村道	修繕	(1) 保内神通線 合場川橋	橋梁補修 0.01km	富山市						21	
33-A1-3	道路	一般	富山市	直接	-	市町村道	修繕	(1) 神通町蝸川線他 布瀬橋他	橋梁補修(小規模橋梁)1,973橋	富山市						450	
33-A1-4	道路	一般	富山市	直接	-	市町村道	修繕	(他) 山田・八尾線他 新婦トンネル他	トンネル補修 7本	富山市						222	
33-A1-5	道路	一般	富山市	直接	-	市町村道	修繕	(1) 綾田北代線 八田橋	橋梁架替 2橋(上り・下り)	富山市						950	
33-A1-6	道路	一般	富山市	直接	-	市町村道	計画・調査	(他) 神通町安養坊線他	橋梁長寿命化修繕計画策定	富山市						904	
33-A1-7	道路	一般	富山市	直接	-	市町村道	計画・調査	(他) 山田・八尾線他	道路構造物等の点検	富山市						55	
											合計		6,202				
B 関連社会資本整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
										H25	H26	H27	H28	H29			
											合計		0				
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考		
C 効果促進事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
										H25	H26	H27	H28	H29			
											合計		0				
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考		

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	橋梁等の耐震化を進めたことで、災害に強く安全で安心なまちづくりにむけて事業を進捗させることができた。しかしながら、定期点検の結果により、更新対応とする橋梁が増加したことにより、当初の成果目標を下回る結果となったことが指標から考察される。			
--------------------------------	--	--	--	--

II 定量的指標の達成状況	指標①（橋梁保全率）	最終目標値	71.0%	目標値と実績値に差が出た要因	定期点検の結果により、更新対応とする橋梁が増加したことから、当初の目標を下回る結果となった。
		最終実績値	37.6%		

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)				
--	--	--	--	--

3. 特記事項（今後の方針等）

今後、橋梁の耐震化・老朽化対策等に係る事業において、優先順位を踏まえた選択と集中による計画的な事業の執行により、引き続き災害に強く安全で安心なまちづくりを推進することとする。

(参考様式3)

(参考図面)

